

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいにしょう
じっせん
第二章 実践

みらい
てんぼう
未来への展望

ねふか すなわ えだしげ みなもととお すなわ なが なが
根深ければ則ち条茂く、 源遠ければ則ち流れ長きがごとし。

（おんぎくでん）
095 御義口伝

みらい てんぼう
未来への展望 995ページー4行

き ね ふか えだ は しげ かわ みなもと とお
（木は）根が深ければ枝や葉は茂り、（川は）源が遠ければその流れは長くなるようなものです。

みなもと

みず

なが

乾

ひ

薪

欠

絶

源に水あれば流れかわかず、火はたきぎかくればたえ

そうもく

だいち

しょうちよう

ぬ。草木は大地なくして生長することあるべからず。

けかじようじゅごしよ

（103 華果成就御書

みらい

てんぼう

未来への展望

1210

ページー9行

ほんしすで ま

まつよう

なお

みなもとに

なが

本師既に曲がれり、末葉あに直からんや。「源濁れば流

きよ

とう

い

にほんひさ

れ清からず」等とはこの謂いか。これによつて日本久しく

やみよ

ふそうつい

たこく

しも

か

ほつ

闇夜となり、扶桑終に他国の霜に枯れんと欲す。

おおたにゆうどうどのごへんじ

151 太田入道殿御返事

みらい

てんぼう

未来への展望

1362

ページー5行

ねあらわ
根露れぬれば枝かれ、
えだ 枯
みなもとかわ
源 渴けば流れ尽くると申すこと
なが っ
もう
あり。

（
248
弥源太入道殿御消息

やげんたにゆうどうどのごしようにそく

みらい
未来への展望
てんぼう
1703
ページー12行